

海外農業研修

二〇一九年度ガイドブック



公益社団法人 国際農業者交流協会
The Japan Agricultural Exchange Council



第1回 海外農業研修生 クリーブランド号の前で
1952年当時は船で2週間かけ渡米しました



ひと仕事を終えて農場主と牧草の上で語り合う
カリフォルニア州の研修生

農業研修生海外派遣事業の沿革

- 【社団法人 国際農友会】
- 1952年 (昭和27年) アメリカ派遣事業開始～
- 1953年 (昭和28年) デンマーク派遣事業開始～
- 1953年 (昭和28年) ブラジル派遣事業開始～ 1964年度まで派遣
- 1957年 (昭和32年) スイス派遣事業開始～
- 1957年 (昭和32年) ドイツ派遣事業開始～
- 1957年 (昭和32年) カナダ派遣事業開始～ 1990年度まで派遣
- 1964年 (昭和39年) オランダ派遣事業開始～ 1990年度まで派遣
- 1964年 (昭和39年) ニュージーランド派遣事業開始～ 1990年度まで派遣
- 1972年 (昭和47年) アメリカ ハワイ州派遣事業開始～

- 【社団法人 農業労務者派米協議会】
- 1956年 (昭和31年) カリフォルニア農業研修生派遣制度 (3年制) 開始～
1966年度まで派遣
- 1965年 (昭和40年) 日米貿易・経済合同閣僚会議開催
(カリフォルニア農業研修生派遣制度の廃止と
2年制農業研修制度の創設について協議)

- 【社団法人 農業研修生派米協会】
- 1965年 (昭和40年) カリフォルニア農業研修生派遣制度に代わり
米国本土派遣2年制農業研修制度が創設
- 1966年 (昭和41年) 米国派遣2年制制度開始

- 【公益社団法人 国際農業者交流協会 (JAEC)】
- 1988年 (昭和63年) 社団法人国際農友会と社団法人農業研修生派米協会がそ
れぞれの実施事業を充実強化するために解散統合し、新
たに社団法人国際農業者交流協会が設立され、それまで
両団体で行われていた派遣事業を継続実施
- 2006年 (平成18年) 米国派遣2年制を1年半のプログラムに改良～
- 2012年 (平成24年) 内閣府から公益社団法人の認可を受け名称を
公益社団法人 国際農業者交流協会と改める
- 2018年 (平成30年) オーストラリア派遣事業開始～
- 2019年3月に第1期研修生が渡航



ドイツコース研修生
ています
海外に長期滞在し語
ヨーロッパの歴史や

海外農業研修

2019年度 ガイドブック

CONTENTS

ご挨拶	≫ 3
海外農業研修のすすめ	≫ 4
アメリカでの農業研修	≫ 5
オーストラリアでの農業研修	≫ 9
ヨーロッパ・その他の国々での農業研修	≫ 11
アプレンティスシップ	≫ 15
帰国後について	≫ 17
アメリカ・オーストラリア (応募資格と募集人数・応募から渡航まで・必要な費用)	≫ 21
ヨーロッパ・その他の国々 (応募資格と募集人数・応募から渡航まで・必要な費用)	≫ 27
公的資金を活用しよう	≫ 31
よくあるご質問	≫ 32
お問い合わせ先	≫ 34

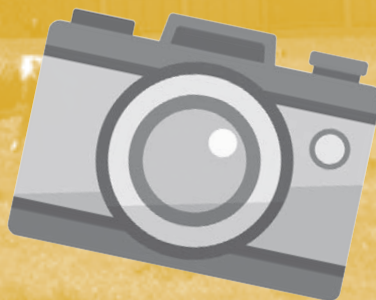


と羊のショット 近年は女性の参加者も増え

学に磨きをかけ研修を成功させよう
文化への理解を深めるよう



アメリカコース研修生 基礎学習中の1枚
大型トラクターの運転を練習



公益社団法人国際農業者交流協会は、英語名を The Japan Agricultural Exchange Council (略称 JAEC) と表記し、海外において先進農業技術や経営などを学ぶプログラムを提供する専門機関として昭和 63 年に設立されました。前身団体からの累積では、これまでに 14,800 名を超える日本青年が海を渡り、言葉の壁や文化、生活環境の違いを乗り越えて先進農業を学んできました。海外で研鑽を重ねた方々は、培った知識と経験を生かし、我が国における中核農業者として、更には農業関連諸企業や国際協力分野において活躍されています。

本会では、上記に加え ASEAN 諸国や欧州諸国からの農業研修生の受入事業、国際化に対応するための課題について勉強を行う研究会やセミナーの実施など、多岐にわたる事業を行っています。

これらの事業は、欧豪米及びアジア諸国の政府機関、関係団体との長年に亘る協力と信頼関係によって実現されているもので、その質と研修効果の高さは国内外から高く評価されています。

さらに近年加速するグローバル化により、我が国と諸外国との関係は新たな局面を迎え、農業を取り巻く環境においても目まぐるしく変化し、後継者不足、休耕地の増加、食料自給率の低下など、我が国農業の抱える課題は様々に挙げられます。このような時代において農業青年が海外農業研修を通じ、技術力、経営力、国際感覚などのグローバルスタンダードを身につけることが求められています。

日本を離れ、世界の第一線で活躍する農業者の下で、自国だけでなく諸外国の動きを捉えながら農業経営を学ぶこと、さらに海外から客観的に日本を見ることこそが、今まさに将来の我が国農業を担う若者の先見ある判断と言えるのではないのでしょうか。

また、異国での生活は、現地の文化や習慣を理解し、外国語を習得するだけでなく、世界の中の日本がどのような役割を果たし、どう思われているのかを直接確かめる良い機会となるでしょう。さらに日本代表として外国の人々と交流を持つことで、郷土愛、家族への感謝、そして、自分を見つめ直すことにも繋がり、優れた人間性を醸成するものと確信します。

人生の分岐点と成り得るまたとない機会です。夢に向かい挑戦してください。

公益社団法人 国際農業者交流協会
会 長 野 中 和 雄



海外農業研修のすすめ

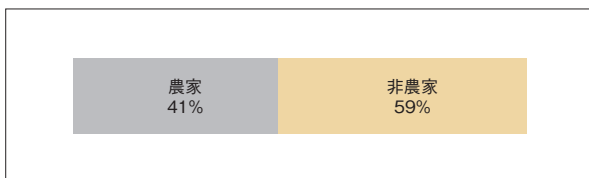
多くのことを巧みにこなす農業者には様々な技能と知識が求められますが、それらは実践を通じて身に付けることが最も有効な手段だと考えられます。

国際農業者交流協会の海外農業研修は、海外に長期滞在しながら、優れた農業経営者の指導の下、技術や知識の習得に加え、日本国内だけでは達成し難い、国際感覚と教養、そしてグローバル化社会において必要とされるコミュニケーション能力を修得し、優れた農業者を育成することを目的としています。このような実務研修は、英語で On the Job Training、または Learning by Doing と言われ、世界中の国々で実施されています。

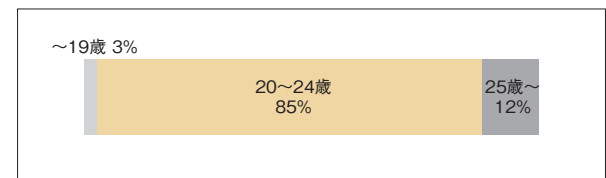
海外農業研修の根幹である農場実習中は、研修農場の経営の一環に携わりながら、地域社会との活動にも関わりを持ち、農業技術・知識だけでなく、その国に根付く文化や慣習なども学びます。研修農場には、日本人研修生を継続的に受け入れているところが多くあります。それは、日本人の学ぶ意欲や誠実さを高く評価し、一緒に生活することに喜びを感じているからであり、長年のプログラム運営における信頼の積み重ねによって成り立っています。これまで学校などで先生から教わっていたような受身的な「学び」ではなく、自らの強い意志により「学ぶ」チャンスを見つけ出し、自主性と自助努力が伴うことで学びの範囲が大きく広がります。自身にとってこの研修がどのような意味を持ち、将来の目的達成のためにどのような役割を果たすのかということを考え、未来を見据える良い機会としていただきたいと思います。若い時に海外へ一歩大きく踏み出すことで、日本だけでなく海外にも人生の選択肢が大きく広がっていきます。

海外農業研修への参加者（2016年～2018年度の3年間 193名の内訳）

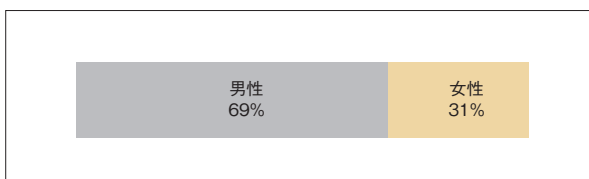
農家出身 / 非農家出身



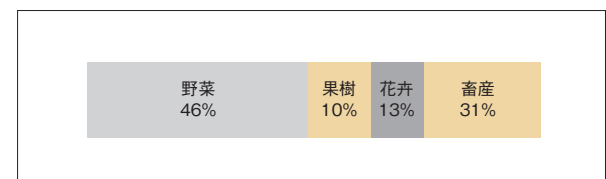
年齢層



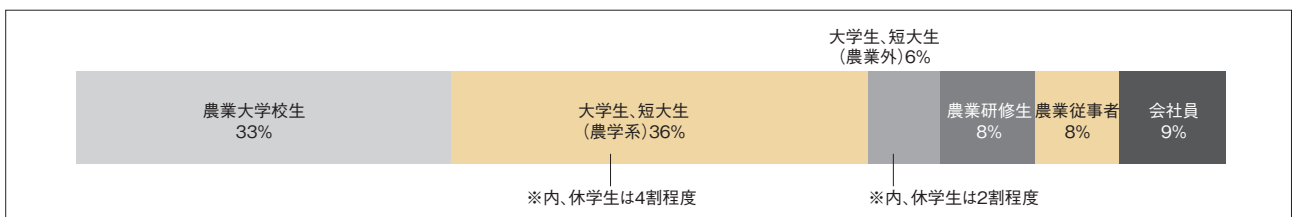
男女比



専攻別割合



申込時の職業



海外農業研修参加者の7割近くが、大学・大学校・短大卒業時に参加しています。

理論と実践のサンドイッチ教育 アメリカコースの1年半

渡航
(3月下旬)

基礎学習 約2か月
(3月下旬～5月下旬)

農場実習 約13か月
(5月下旬～翌年7月上旬)

～研修開始～

東京からアメリカへ



出発前の様子。
壮行会で激励の言葉をいただき、みんなで研修成功祈願。
さあ、いよいよ出発！



シアトル・タコマ空港から出たアメリカの景色、気候の違いにビックリ！



アメリカ最初の地となるワシントン州中部のモーゼスレイクに到着。

～農場での実習前に
アメリカでの生活に慣れる2か月～

ワシントン州モーゼスレイクにあるビッグ・ベンド・コミュニティ・カレッジにて、英語、スペイン語の学習、農業授業、トラクターなどの農業機械操作、農業視察を行う。

大学での寮生活



ビッグ・ベンド・コミュニティ・カレッジのキャンパス。語学の基礎と米国農業の一般知識を身に付け、アメリカでの生活に慣れていく。



日本人農業研修生に合わせたベテラン講師による英語レッスン。



アメリカ北西部最大の都市シアトル。基礎学習中に訪問する機会もある。

～アメリカ農業を実務研修を通して学ぶ13か月～

研修の根幹となる農場での実習。専攻業種ごとに農場での実習となる。農場の宿舎に滞在し、実習手当の中から現地での生活をやりくりするのもこの研修の醍醐味。

農場が用意する宿舎での生活



仲間たちと共に農作業に励む。



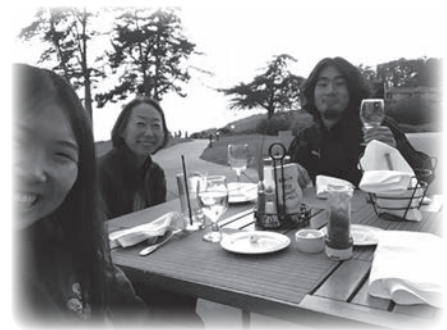
肉牛専攻の研修生の中には、カウボーイに挑戦する研修生も。



農場にはヒスパニック系ワーカーが多く、スペイン語で意思疎通を図ることも。



サンフランシスコのマーケットにて、野研修生。お客さんと直接触れ



研修農場は多種多様。広大な農場もそうだが、アメリカ農業者の懐の深さ、経営に対する考え方を直に学ぶことで、あなたの人間力も大きく成長する。

大学での語学と農業学習、農場での実務研修とを組み合わせ、理論と実践を以って農業を学ぶ1年半。

専門学習 約2か月
(7月上旬～8月下旬)

最終研修旅行 約10日
(8月下旬～9月中旬)

帰国
(9月中旬)

～アメリカ農業研修の成果を生かし
帰国後を見据える2か月～

農学部を有する州立大学（カリフォルニア大学デービス校を予定）にて、業種ごとの専門知識を学ぶ。
また、帰国後の農業ビジネスプランを作成し英語で発表を行う。アメリカ農業研修で得た知識・経験を総括する。

ホームステイ



アメリカ流プレゼンテーションを学ぶ機会も。



カリフォルニア州の先進農家を訪問。フィールドトリップで訪ねる生産者が先生となる。



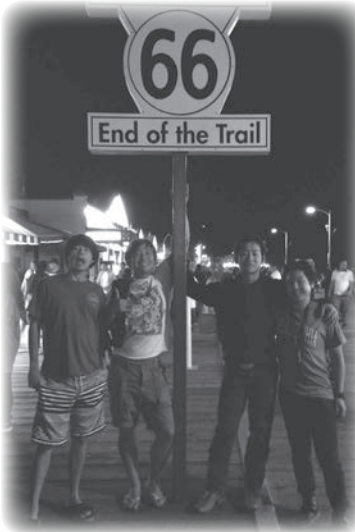
デービス周辺は有機農業も盛ん。農場実習で経験したことをより深く学ぶ。

～自分でアレンジする研修旅行～

自らが旅行プランを考えてアメリカを学ぶ計画を立てる研修旅行期間。自由の中にも責任があり、これまで学んだ力、語学力が試される。



最終研修旅行中の研修生。アメリカの国立公園では、大自然に圧倒される。



～アメリカでの経験を生かして～

シアトルに集合し修了式を行い、帰国する。アメリカでの経験を生かして郷里に戻り、農業人材として活躍する。



～海外農業研修生 帰国報告会～

帰国後、東京での報告会を行った後に解散となる。



ファーマーズ・
菜を販売する

合う。

アメリカ

農産物生産量世界一
農産物輸出額も世界一

～国際化の時代だからこそアメリカ農業に学ぶことがある～

日本の約 25 倍の国土に農地面積は日本の約 80 倍。東西南北に広大な国土を有するアメリカでは、その土地面積と多様な気候を生かした適地適作の農業が営まれています。ビジネスに徹した考え方の基に経営され、綿密なコスト計算、収支の無駄を省く意識、農地の有効利用、見渡す限りの圃場で高度に機械化された作業体系により、効率的に利益を上げる大規模な農業はアメリカ農業の特徴でしょう。一方で、農産物の安全性に対する意識の高まりとともに、有機農業を実践し、ファーマーズマーケットや消費者との直接取引を行う地域社会と結びついた小規模農家にも注目が集まっています。世界屈指の農業大国で、諸外国との国際競争に打ち勝つ術、語学力とグローバルな考え方を身に付けよう！

～どんなことが学べるの？～

約 13 か月間の農場実習では、研修生の専攻業種に合わせて 1 つの農場に滞在し、農業技術・経営を実践的に学ぶとともに、その地域の歴史や文化に触れることで、教養を身につけていきます。

【野菜】

生産から収穫・出荷までの管理作業、農業機械作業など農場により多種多様な作業を行います。有機野菜生産、都市近郊野菜生産、生産農場+直売所、施設栽培、種苗会社などの農場があります。

【果樹】

りんご、洋ナシ、さくらんぼ、桃、ベリー類、柑橘など、農場により生産を行う作物が異なります。コーヒー生産を行う農場もあります。

【花卉】

鉢花、花壇苗、グランドカバー、観葉植物、クリスマスツリー、葉ものや枝ものなどの生産を行う農場での研修となります。作目は多岐にわたり、露地栽培、施設栽培ともに行われています。

【造園】

公共施設、庭園、新築住宅の庭、注文庭園などの設計、施工、メンテナンスなどを行う会社での研修となります。日本庭園の施工、管理に携わることもあります。

【酪農】

搾乳牛 150 ～ 1,500 頭と農場によって規模が異なり、研修生が受け持つ作業は、搾乳、子牛への哺乳や牛群移動管理、牛舎の清掃、給餌などの他、牧草管理、サイレーシ作りなど様々です。

【肉牛】

繁殖農場と肥育農場に分けられます。放牧牛管理、牧草生産と乾草作り、飼料配合、給餌、肥育場管理、牧草生産などの作業を行います。

【養豚】

繁殖農場での研修となり、母豚 5,000 頭規模の経営が行われています。研修生の作業は、分娩処理、去勢、母豚移動、豚舎清掃、注射、切歯など多岐にわたります。

【養鶏】

採卵を営む小規模農場となります。都市近郊農場のため、直売を主としていて、研修生は、給餌、鶏舎掃除、ハウス修繕などの作業を行います。

研修農場は、アメリカ西海岸のワシントン州、オレゴン州、カリフォルニア州を中心に、アイダホ州、ミネソタ州、ネブラスカ州、ウィスコンシン州、イリノイ州、デラウェア州、メイン州、ハワイ州と多方面に配属実績があります。

～豚大好き グローバル人材になるためのアメリカ修行（トビタテ！留学 JAPAN 奨学生）～

有方草太郎さん 平成 28 年度アメリカコース参加 養豚専攻 2017 年 3 月～2018 年 10 月研修

大阪出身の私は大学受験時に畜産を勉強しようと思った。当時 2 年連続で牛肉日本一に輝いた宮崎牛の本拠地宮崎を選んだ。大学を休学し、ネブラスカ州にある母豚 6,000 頭規模の養豚農場の分娩部門で研修を行った。子豚が母豚のおっぱいをチューチューと吸う姿がとても可愛いく、一生見ていられると思った。農場での作業自体は日本とあまり変わらなかったが、やはりあれだけの規模の経営を日本にそのまま持ち込むことは難しいと感じた。私が一番の学びと考えているのは、農場で一緒に仕事をする同僚たちとの日々だ。農場主、マネージャーはアメリカ人。ワーカーはメキシコ人。研修生はフィリピン人、ウクライナ人、ベトナム人、そして日本人の私という超多国籍な農場である。人種のるつぼアメリカ。研修生同士、英語はお互いに外国語となるため、言いたいことを分かり合うのに時間がかかる。そして、はっきりと意見を言わないと自分の立場がなくなってしまう。時には、喧嘩をすることもあったが、一つ一つのコミュニケーションを重ねてやっと分かり合えた。私はこれがグローバル人材になるための一歩ではないかと考えている。

帰国して早くも 3 か月が過ぎた。大学生活に戻るまでは思いっきりやりたいことだけやろうと思ひ、様々なところに足を運んでいる。私が注目しているのは、若くして新規就農し、その人にしか作れない農畜産物を届けよう



他国の研修生と実習に励む様子

として熱い思いを持った農業者である。そういった人たちに様々なアドバイスや、今注目の IT 機器などを取り入れよりスマートな農業ができるようにしたい。汚い、きつい、安い、といった考えを払拭し、機器を駆使しかっこよく、効率的に、なおかつその人にしか作れない付加価値のついた農畜産物を作れる手助けをしたい。そして、「農家かけえ」と思ってもらい、「将来農家になりたい！！」という夢を持った子供たちが出てきてほしいと思っている。

次にまた、共に研修を乗り切った同期研修生の仲間と出会えることを見据え、胸を張って堂々と再会できるように頑張りたいと思う。

～社会人から研修生に 新しい世界への挑戦～

近藤瑞穂さん 平成 29 年度アメリカコース 野菜専攻 2018 年 3 月渡航～現在研修中

私の実家は農家です。農作業をして働く両親を見て育ち、繁忙期には嫌々手伝いに行ったものです。私は、農業とは関係のない栄養士の資格を取得できる短大へ行き、卒業後は栄養士として働いていました。しかし、毎日同じような仕事をし、これといった目標もなく刺激のない日々を過ごしていました。ある時から、「自分はこのままでいいのか」と疑問を持ち始め、昔は嫌々行っていた両親の手伝いにも自ら行くようになり、農業の楽しさや面白さを感じるようになりました。このプログラムのことは前々から知っており、海外への憧れもありました。なかなか仕事を辞める勇気が出なかったのですが、アメリカへ行けるのは今しかないという強い思いがあったので、アメリカ農業研修に参加することにしました。

私は今、カリフォルニア州にある小松菜、水菜、春菊、きゅうりといった日本野菜を有機栽培で育てている農場で研修しています。作業内容は主に播種や収穫、注文の受け取り、パッキングなどを行っています。ハウス栽培のため年中出荷しています。小規模なので、消費者の方と関わる機会もあります。農場主は女性です。農業は男性の仕事だというイメージが強いですが、男性でしかできないような仕事もあります。しかし、逆に女性ならではの考え方も重要だということを農場主から教わりました。ここは日系の農場で、クリスマスにお餅つきをしたり農場の野菜を使ってお鍋パーティーをしたりしました。また、メキシコ人の従業員が 2 人いるので、英語、日本語、スペイン語が飛び交い楽しい農場です。

アメリカに来なければできなかった経験や出会いなどがたくさんあります。農場での研修も半分を切りました。残りの時間も学びのあるものになりたいと思います。



採れたてのリンゴと野菜たち

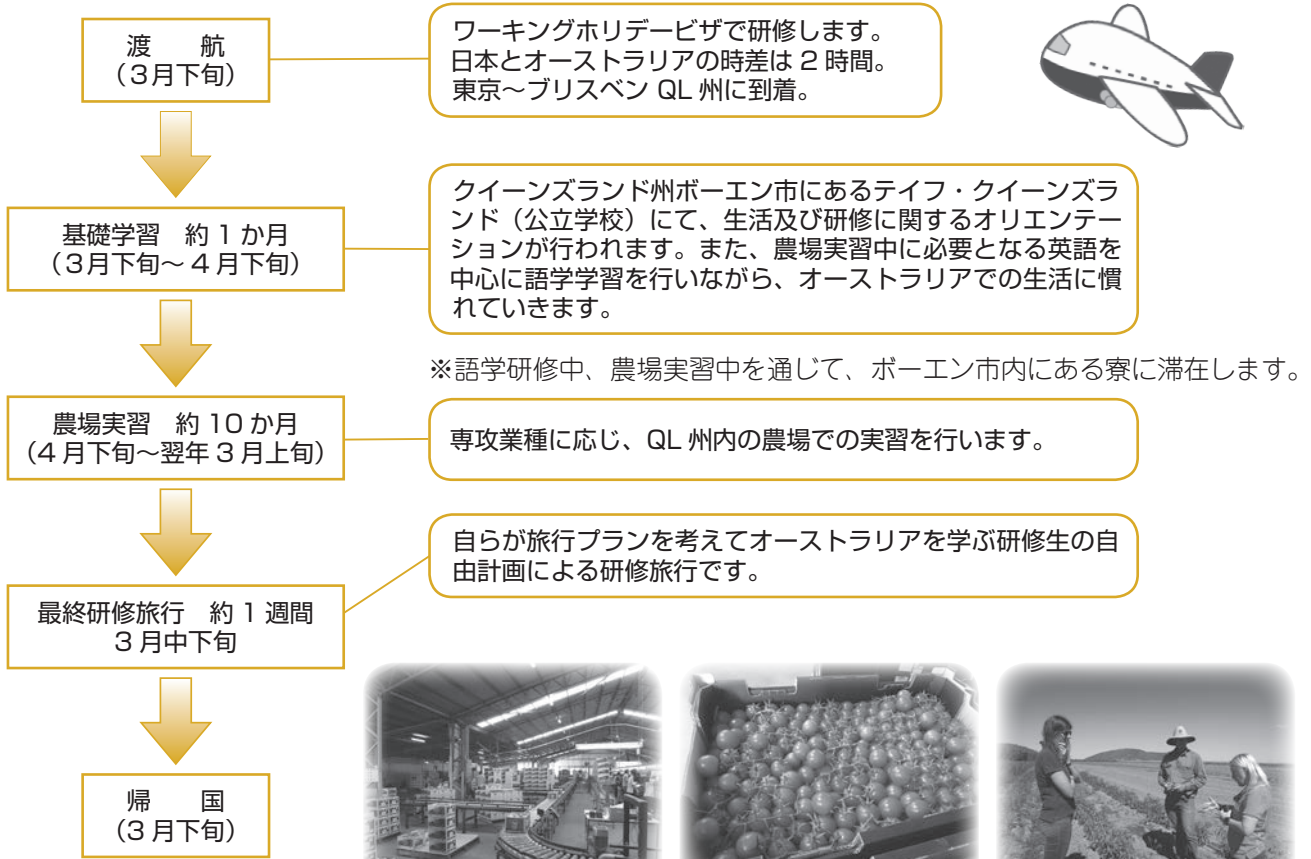
南半球での農業研修 1 年

オーストラリア

オーストラリア北東部クイーンズランド州（QL 州）政府と連携し、QL 州での農業研修ができるようになりました。QL 州は、オーストラリアにおいて 2 番目の面積を有し、日本の国土の 5 倍の広さを持つ、農業と観光が有名な州です。この地域の特産品は、夏野菜（カボチャやパプリカ、トマトなど）やトロピカルフルーツ等があります。輸出を主としてきた QL 州農業の技術革新や生産から輸出の手法を学ぶことができます。また、南半球での農業の生産サイクルが季節的に日本とは逆である利点を生かした輸出戦略、そして多様な



<研修スケジュール>



クイーンズランド州（QL 州）での農業研修がスタートしました



出典：“© OpenStreetMap contributors”

気候帯によって多くの種類の果物や野菜を生産する QL 州での研修は、国際競争力ある農業者を目指す方へのヒントがたくさんあるはずです。

専攻可能業種・・・野菜、野菜及びマンゴー
その他現地の状況により研修可能な業種



※ワーキングホリデービザは、それぞれの国に対して 1 度のみ取得が可能です。

渡航前の意気込み～夢は絶対に諦めない！オーストラリア農業研修～

河野茜里さん 平成 30 年度オーストラリアコース参加

野菜及びマンゴー専攻 2019 年 3 月～現在研修中

小さいころから農業をしている祖母から送られてくるおいしい野菜やお米を食べて育ってきました。両親は農家ではありませんでしたが、出身が北海道ということもあり、自分で食べ物を作るということにとっても興味がありました。同時に環境保全にも興味があったため、大学は環境系を選び、今は愛媛の大学で森林について学んでいます。

進路について考えていこうとしたとき、今の自分に自信がなく、このまま社会に出ていくのは何となく嫌だなと感じ、自分に自信が持てる経験が欲しいと思い、海外農業研修の説明会に参加しました。もともと農業に興味があり、海外で農業実習するという貴重な経験ができること、そして生き生きと説明して下さる先輩方の姿を見て、自分も「あなりたい」と思い応募しました。たくさんコースがあってとても迷いましたが、マンゴーに携われること、オーストラリアの農法に興味があり、実際に見てみたかったので、オーストラリアに決めました。

選考を終え事前講習に参加してみてびっくりしました。研修仲間の専門は農業で経験者ばかり…、今考えるとそれが普通だったのかもしれませんが、それに引き換え自分の専門は森林であるのに農業研修、「しかも海外でなんて大丈夫かな」とかなり心配していました。正直、今でも不安はあるけれど、漠然とでも自分が「やりたい！」と感じたことに嘘はつきたくなかったので、大学を休学して海外に行く決心が固まりました。

時々不安でくじけそうになる時もありますが、そんな時は事前講習を一緒に受けた頼もしいオーストラリアコースの仲間に連絡して元気もらっています。私の目標は、海外農業研修という経験を積んで、今の自分を少しでも変え、成長すること。オーストラリアコース第 1 期研修生として頑張ってきたと思います。

そしてこのメッセージが、「いま勉強していることとは全然違うしな…」と参加を迷っている方の背中を押してあげられたらいいな、と思っています。



大学の講義で挑戦したツリークライミング



青森県のリンゴ園にて

渡航前の意気込み～新しいキャリアへの最初の一步として～

吉田誠也さん 平成 30 年度オーストラリアコース参加

野菜及びマンゴー専攻 2019 年 3 月～現在研修中

私は、農業法人の植物工場で 3 年半ほど働いたのち、今回の研修に応募しました。参加を決めた理由は、これまで経験してきた農業の技術や知識をさらに磨き、海外での農業技術協力や日本の農業の活性化など、国内外で社会的な活動に従事したいと思い立ったためです。今回新しく始まるオーストラリアコースを希望したのも、今後の自分のキャリアにとって最適な研修国だと考えてのことです。

オーストラリアは様々な国から労働者が来ており、異なる価値観に触れられる機会が多い国であること。また、南半球に属し、年間を通して温暖な気候は、多くの発展途上国と類似していますし、温暖化が問題視されている日本においても、将来的に参考にできる点が多いのではないかと思います。加えて、社会人を經由して参加する自分としては、農業と英語の双方を 1 年間という短い期間に集中して学べるプログラムにも魅力を感じました。オーストラリアでは第一に、農場の栽培技術を、そして同時にマネジメントや流通など、経営についても学びたいと思っています。

オーストラリアコース第 1 期研修生としての渡航となります。制度や環境が未発達であるからこそ、主体的に考え、行動し、成長していける環境になるだろうと思っています。なにより、第 1 期研修生としての自分たちの振る舞いが、今後の研修生のイメージに与える影響は大きいと思いますので、日本を代表して行くという自覚と責任を持って行動しようと思っています。ただ、そうはいつでも、世界遺産であるグレートバリアリーフを眼前に望む素晴らしい町で生活する機会は、人生にそうあるものではないと思います。最大限この機会を生かし、そして楽しみながら実りのある一年間を過ごしたいと思っています。

ヨーロッパ・その他の国々での農業研修

欧州の農業の幅広さ、伝統と歴史は、他の地域と明確な違いがあります。これまでも長年にわたり、デンマーク、ドイツ、スイス、オランダでの長期農業研修プログラムを実施し、たくさんの研修生たちが様々な分野で学んできました。この4か国の研修事業に加えて、より広域に、様々な方の要望に応えられるようプログラムを改良しています。

<ヨーロッパコースの代表的な研修スケジュール>

渡航 (3月中旬)	語学研修 (3月中旬～4月上旬)	農場実習 約半年(4月上旬～ 翌年3月上旬)	最終研修旅行 約1週間 (3月上旬)	帰国 (3月上旬)
--------------	---------------------	------------------------------	--------------------------	--------------

デンマーク

面積は九州ほどの小国ながら、デンマークはヨーロッパ屈指の畜産大国です。酪農では、放牧酪農を主として、ホルスタイン、ジャージーを育成する酪農家が多く、乳固形分量は世界でもトップであり、チーズに適した高品質の牛乳を生産しています。また、養豚産業は多くの農場が繁殖と肥育の一貫経営で、豚肉の輸出額は世界第3位を誇ります。デンマークでの農業研修は大規模かつ家畜福祉に配慮した畜産を学ぶことができます。

■受入機関■

Travel To Farm

■専攻業種■

業種	研修期間	備考
酪農	3か月～1年間	大規模酪農
養豚	3か月～1年間	近代的な養豚経営
緑化木	3か月～1年間	樹木等の生産管理
肉牛	3か月～6か月間	繁殖・肥育

■研修期間■

3か月～1年 ※研修開始時期は通常3月

■その他■

- 言語：デンマーク語 ※研修中は英語を使います
- 通貨：デンマーククローネ(DKK) ※1クローネ=およそ17円
- 入国のビザ：インターンまたはワーキングホリデー

ドイツ

ヨーロッパを代表する大国のドイツ。ジャガイモや穀物のイメージが強いですが、鉢物、果樹、酪農、養豚など、実に多彩な農業を行っており、どの分野も国民性や食文化が関連しています。農業形態においても大規模農業に限らず、多品目の野菜を扱う農場や畜産と野菜や穀物の栽培を合わせた複合経営を行う農場など、日本では珍しい取り組みを行う興味深い農場が多くある国で、酪農および庭園の施工管理などを行う造園業の研修が可能で、使用される資材やドイツ人らしい感性に基づく庭づくり、西洋庭園のスタイル、多種多様な樹木、宿根草を使いながら空間を造っていく過程を学ぶチャンスがあります。

■受入機関■

Deutscher Bauernverband e. V. (DBV)

■専攻業種■

業種	研修期間	備考
酪農	1年間 ※短い期間も可	大規模酪農
養豚	3か月～6か月間	繁殖・肥育
野菜	3か月～1年間	有機野菜の場合は3か月まで
果樹	3か月～6か月間	主に収穫期の受入となる
花卉	3か月～6か月間	鉢物・切花・植木
造園	1年間 ※短い期間も可	管理作業が中心

■研修期間■

3か月～1年 ※研修開始時期は通常3月

■その他■

- 言語：ドイツ語 ※研修中は英語またはドイツ語を使います
- 通貨：ユーロ（EUR） ※1ユーロ=およそ125円
- 入国のビザ：研修生またはワーキングホリデー

+

スイス

+

スイスは観光国としても有名であるため、景観保持のために農業が重要な役割を担っています。農業の主な経営スタイルは畜産（酪農、肉牛、養豚、養鶏）と畑作、野菜や果樹を組み合わせた複合農業です。これにより有機物が農場内で循環する環境保全型農業を可能にしている、環境に配慮した農業経営を行うことができます。また、家族経営の農場が一般的であるため、スイスでの農業研修は家族の一員として生活しながら農業や文化を学んでいきます。

■受入機関■

Agripuls

■専攻業種■

業種	研修期間	備考
複合（酪農）	1年間	耕畜連携の家族経営（環境保全型農業）
複合（養豚）	1年間	／
野菜	1年間	慣行野菜（統合農法）、有機野菜

■研修期間■

1年間 ※研修開始時期は通常3月

■その他■

- 言語：ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語 ※研修中はドイツ語を使います
- 通貨：スイスフラン（CHF） ※1スイスフラン=およそ110円
- 入国のビザ：研修生

オランダ

オランダは面積としては小国ながらも、農産物輸出額で世界のトップ3に入る農業大国です。施設栽培の野菜や花卉の農場をほぼ会社化し、近代的設備とシステム化された管理方法と経営を行うことで、数ヘクタールの巨大な温室での栽培を可能にしています。さらに、農薬を使わず、天敵昆虫や装置を使った防除（IPM）を積極的に導入し、効率的に生産しています。その一方で露地栽培においても、アスパラガス、葉物野菜、イチゴなどを大規模に生産する農場や、有機農業を行う農場も多くみられます。また、平坦な土地を生かした放牧中心の効率的な酪農も有名で、ロボット搾乳を導入する農場やチーズ加工を行う農場も多くあるため、オランダでは多様な近代農業を学ぶことができます。

■受入機関■

Stichting Uitwisseling (SUSP)

■専攻業種■

業種	研修期間	備考
酪農	1年間 ※短い期間も可	ロボット搾乳、チーズ加工
複合	1年間 ※短い期間も可	耕畜連携農業（有機農業）
野菜	3か月～1年間	施設栽培、露地栽培、有機野菜の場合は3か月まで
切花	3か月～1年間	施設園芸
鉢物	3か月～1年間	／
緑化木	3か月～1年間	植木等
球根	3か月～6か月間	チューリップ等

■研修期間■

3か月～1年 ※研修開始時期は通常4月

■その他■

- 言語：オランダ語 ※研修中は英語を使います
- 通貨：ユーロ（EUR） ※1ユーロ＝およそ125円
- 入国のビザ：研修生

★ その他の国々 ★

本会は、多様なご希望にお応えできるよう、世界中のパートナー組織と協力しながら研修事業を展開していきます。現在まで定期的に研修生を送り出していた既述の国々の他にも、フランス、アイルランド、カナダなどで皆さんの参加を待っている受入農場があります。

■受入機関■

本会のパートナー組織または団体

■専攻業種■

応相談

■研修期間■

3か月～1年間

■その他■

- 入国のビザ：研修生、ワーキングホリデー他

～本場の風に吹かれて～

松崎陽平さん 平成 29 年度オランダコース参加
酪農専攻 2018 年 3 月～2019 年 3 月研修

「日本人の作ったチーズはありますか。」そう言って、小学生くらいの少年とそのお父さんとが私を訪ねてきたのは、ある土曜日の昼下がり。これが私の初めてのお客さん。

大学 1 年生の時、たまたま本場ヨーロッパのチーズを食べてからというもの、チーズに興味を持ち始め、各地の牧場やチーズ工房を巡りお話を伺っているうちにチーズ職人の道を歩むこととなったのが、わたくし松崎陽平である。チーズ文化の浅い日本にチーズのすばらしさを広めたいという思いから、子どもにチーズについて教えられるようなチーズおじさんを目指している。そこで、私のチーズの道の始まりとなったヨーロッパのチーズ文化をこの身で実感したいと、ゴータチーズの国、オランダのチーズ農場で研修をさせていただくこととなった。乳を搾る。チーズを作る。牧場のショップで売る。自分たちでも食べる。農場主やお客さんとチーズの話をする。まさにチーズ文化にこの身が溶け込んだような日々である。

そんなある日、「このチーズ、絶対に売れるわ！」と、私が試作で作らせてもらっていたチーズを食べたおばちゃん。彼女はこの農場のマーケットのエース。彼女の一声で私が考案したチーズが村のマーケットに並ぶことになった。マーケット当日。その日も農場でチーズを作っていた私のもとに、一組の親子が来ることとなる。マーケットで私のチーズを気に入ってくれたが、もっと欲しかったためここまで足を運んでくれた。しかし、来週まで在庫がない。そのことを伝えると、「じゃあ、来週絶対取りに来るから！」とわざわざもう一度来てくれるという。確かに、そのチーズは私が考案したものではあるが、農場主が作り上げてきた牧場のミルクや工房の機械を使って製造したもの。真に松崎陽平のチーズとは言えない。それでもうれしかった。自分が試作して、マーケットに出す許可ももらって、そしてわざわざ買いに来なくなるほどおいしいと思ってもらえた。「君がこのチーズ文化の一部になっているんだよ」と言われているような気がして、うれしくてたまらなかった。

オランダでチーズに染められた私。今度はこちらが染める番。日本の子どもにチーズを届けよう。



尊敬する農場主と
自慢のチーズ



農業を心から愛している
寛大な農場主と。

～海外で自分を変えたくて～

佐藤弥音さん 平成 28 年度スイスコース参加
野菜専攻 2017 年 3 月～2018 年 3 月研修

農家の出身でない私は中学生のころ、学校の行事で田植え体験をしながら、農業に興味を持ち始め、農業系の大学に進みました。大学 3 年生の終わりごろ、周りのみんなが進路について考え始めている中、私はまだ進路がはっきりと決められていませんでした。そんな時、大学の先生が“海外”という選択肢を教えてくださいました。最初は「自分に海外なんて向いていない」と思いましたが、でもどこかに「今の自分を変えたい」という気持ちがあり、卒業後、海外へ行こうと決心しました。

研修先は、スイスの有機野菜農家。4ha の畑で 30 品目ぐらいの野菜を育て、週 2 回チューリッヒのマーケットで野菜を販売します。私の主な作業は、野菜の収穫、定植、除草、マーケットの手伝いでした。夏場は数えきれないほど除草をして、野菜はほとんど手作業で収穫し、有機農業の大変さを身を以って知りました。大変ですが、自分たちで育てた野菜を毎週のように買いに来てくれるお客さんがいる。私はやっぱり農業が好きだと再認識することができました。また、ある日農場主が「もう一年ここにいてくれないか」と言ってくれて、自分を認めてくれていること、そして私は改めて良い環境で研修することができているんだと実感しています。

異なる文化や価値観の中での生活は何もかもが新鮮で、有意義な時間です。この研修を通して、自分に自信を持てなかった一年前とは少し変わった気がします。いつか、スイスで学んだことを生かして自分で野菜を育て、販売したいと思っています。そして、農業の素晴らしさをたくさんの人に知ってもらいたいと思います。

アプレンティスシップ（国内実習）

海外農業研修の経験を生かした
経営者の下で農業を学んでみよう！

～コースの特徴～

アプレンティスシップとは英語で見習いを意味する言葉です。このコースは、主に国際化対応を意識した海外農業研修経験者の下で農業実習を行い、農業技術、経営管理、販売技術等を習得することを目的としています。

海外農業研修参加を目指す方で農業経験が少ない方へは、アプレンティスシップをお勧めしています。

募集期間： 2019年4月1日（月）～2020年3月31日（火） ※周年

応募資格： 概ね18歳から30歳までの日本国籍を持つ男女で、農業に興味を持ち、精力的に農作業に打ち込み、受入農家及び本会の指導を真摯に受け止め、農業技術・知識、農業経営等の向上に努める方。また、アプレンティスシップ終了後、海外農業研修に参加する意欲のある方。なお、海外農業研修へ応募するにあたっては各コースの条件を確認してください。

- 応募方法： ①インターネットで本会ホームページへアクセスし、アプレンティスシップ（国内実習）のページを開いてください。
- ②ページ下部にあるエントリーボタンをクリックすると申込フォームが開くので、必要事項を入力し送信してください。
- ③平日の概ね3～4日以内にご登録いただいた電話番号へ担当から一度連絡をします。その後、ご登録いただいたメールアドレスへ申込書式が届きます。届いた書式に必要な事項を記入の上、申し込みに必要な書類をそろえて、本会へ郵送します。
- ※開始希望時期の概ね3か月前までには申込書類を提出する必要があります。
- ④書類が届き次第、担当から再度連絡し面接日を決めます。本会事務所（東京都内）で一度面接を行い、国内実習の受け入れが可能であるかを判断させていただきます。（遠方にお住まいの方は、ご相談ください。）
- ⑤研修について打ち合わせをし、希望に近い農家が手配でき次第、受入農家と研修生の両方で実習開始日を決定し、実習を開始します。

研修に係る費用： 申込金 40,000円 + 研修農場までの交通費

※ 実習中の待遇については、アグトレマイレージ制度を利用することになります。
(P16. またはホームページ参照)

実習期間： 原則3か月以上、1年未満の期間で実習を行います。

業種： 酪農、肉牛、養豚、養鶏、野菜、花卉、造園、果樹、その他農業に関わる業種



岡山県の果樹農園で研修

農園主はアメリカでの農業研修に参加（P.20 上段）
観光果樹園で接客の大切さを肌身に感じている。

アグトレマイレージ制度とは？



「国内実習をしつつ、海外農業研修に向けて研修費を積み立てたい！」そんな声にこたえるのが、アグトレマイレージ制度です。研修希望者を応援する国際農友会（研修生 OB・OG の全国組織）により運営されています。3 か月以上のまとまった期間、農業実習ができる方であれば、どなたでもアグトレマイレージ制度をご利用いただけます。

アグトレマイレージ受入農家での 1 日の実習を 1 アグトレマイレージポイント（1amp）とし、実習した期間のポイントの合計に応じた奨学金やいろいろな特典が受けられます。また、受入農家から一定額の小遣いの支給が受けられ、住居や食費が保障されるため、海外農業研修に向けて研修費を貯めることが可能です。

アグトレマイレージ制度で得られる特典・待遇

- ・ 研修奨学金…1amp=1,500 円
- ・ 特別奨学金…実習期間に応じて特典が得られる

75amp 以上で 15,000 円 ⇒ 150amp 以上で 30,000 円 ⇒ 250amp 以上で 50,000 円
（奨学金は海外農業研修へ渡航される際に、国際農友会から付与されます。）

- ・ 研修小遣い…40,000 円 / 月（毎月受入農家より支給）
 - ・ 75amp 以上で研修生サポート資金の優先貸与
 - ・ 75amp 以上で海外農業研修の選考会費用の免除。ただし、免除は 1 回のみとし、選考会当日までに 75amp 以上であることを証明する書類の提出が必要。
 - ・ 住居の提供
 - ・ 食事の提供（自炊の場合は別途食費の支給）
- ※それぞれの特典はアグトレマイレージポイントの最終獲得日から 1 年以内に海外農業研修に参加される場合のみ有効です。研修奨学金や特別奨学金は海外農業研修に参加しなくなった場合、受け取ることはできません。

～アプレントイスシップを経て海外農業研修へ～

伊藤英二郎さん 平成 28 年度アメリカコース参加 野菜専攻 2017 年 3 月～ 2018 年 10 月研修

私は小さい頃から農業が好きで祖父と一緒に田畑へ行くことが日常的にあり、将来的にも好きな仕事をしたという考えがありました。高校卒業後は地元企業に就職をしましたが、自分の好きな農業を生涯の仕事にしたいという気持ちが強くなり、専業農家になろうと決意しました。農業をするにあたって地元の農業の仕方だけではなく、他の地域の農業を見ることで多くの知識や考え方を身につけたいと思っていた時に、この海外農業研修に出会いました。以前からアメリカの農業に興味があり、農場実習中は実習手当をいただきながらアメリカの農業や文化を学ぶことを知り、この研修へ参加することを決めました。研修へ参加するにあたり、私は実家から出たことがなく、農業経験も農繁期の機械作業のみで、このままアメリカへ行ったら大変だと思い、国内研修で自分を鍛えよう決めました。

国内研修では、滋賀県にある米・麦・大豆・ジャガイモ・小松菜・露地野菜の複合農家で 10 か月間、毎日みっちり身体を張って日本の農業について学ばせていただきました。アメリカでは大規模ジャガイモ農場で研修しました。日本の農業とは全く違う農業で最初は戸惑うことが多くて辛い時もありました。そんな時励みになったのが国内研修での経験です。国内研修でお世話になった農家さんに言われた「最後までやりきれ」の言葉を思い出しながら毎日の農場実習に励みました。メキシカンとの作業も国内研修で鍛えられたのであまり大差もなく一緒に仕事ことができました。また、日本とアメリカのジャガイモの栽培管理方法を比較することができ、将来に役立つことが学べました。アメリカでの研修農場は経営規模もとても大きく、従業員はやりがいを感じて仕事をしているところを肌で感じ、日本の農業にも必要なことだと感じました。この国際農業者交流協会の研修で、日本とアメリカの農業を経験することができ、将来展望を考えることができました。帰国後の今は、実家の農業とは別に農場を作るために日々奮闘しています。



尊敬する農場主と後輩研修生

帰国後について

海外農業研修に参加された方は、さまざまな分野で活躍されています。異国での経験がその後の人生にどのように生かされるか、海外での新しい出会いがどのような発展を見せるかは人それぞれです。海外農業研修に参加されたことが人生のターニングポイントとなり、将来の自分への先行投資となっていることを実感されています。

また、本ガイドブックの裏表紙に掲載の通り、多くの団体・企業・教育機関が海外農業研修の趣旨に賛同しご協賛をいただいています。若い時に海外で研鑽を重ねた青年が大変貴重な存在であること、そのような経験を持つ海外農業研修経験者を登用したいという声が多く届いています。

◆無料職業紹介所◆

本会では、農業関連分野を中心とした就職支援のため無料職業紹介所を設置しています。海外農業研修を経験された方は以下のような分野で活躍されています。

研修生の帰国後の進路

農業関連

農業（後継・新規就農）、農業法人、農業団体、農業教育機関、公務員、農協、大学教授、教員
企業（貿易関係、環境調査関係、生物化学、種苗、乳製品加工、農業福祉）など

農業外

国際協力機関、公務員（都道府県職員等）、大学教授、教員、福祉、保育、食品加工業、食品販売業、飲食店、営業、機械業、卸売業、出版、カメラマンなど

その他

青年海外協力隊、留学、海外研修、地域おこし協力隊、代議士など

〈近年の研修生が就職した企業・組織・農場〉

企業名（順不同）

JA 全農（全国農業協同組合連合会）、JA 全中（全国農業協同組合中央会）、
バイエル クロップサイエンス株式会社、ヤンマーアグリジャパン株式会社、株式会社モンベル、
全国酪農業協同組合連合会、ホクレン農業協同組合連合会、株式会社マイファーム、
株式会社日本情報化農業研究所、株式会社 Life Lab、日本政策金融公庫、
タマノイ酢株式会社、株式会社ハクサン、株式会社伊藤園、イオンアグリ創造株式会社、
株式会社白糠酪恵舎、三井物産アグロビジネス株式会社、渡辺パイプ株式会社、
千葉大学環境健康フィールド科学センター、雪印種苗株式会社、株式会社サカタのタネ、
独立行政法人農畜産業振興機構、特定非営利活動法人日本オーガニック&ナチュラルフーズ株式会社、
シンジェンタ・ジャパン株式会社、万田酵素株式会社、株式会社アシストシステム研究所、
パイオニアエコサイエンス株式会社、ヒゲタ醤油株式会社、株式会社アグリ・メディア、
株式会社善祥園、株式会社アースサイド 他

〈海外農業研修を終えた人材を求める企業〉

企業名	所在	業種
株式会社野菜くらぶ	群馬県利根郡昭和村	野菜
株式会社サラダボウル	山梨県中央市	野菜
株式会社ファームシップ	東京都中央区	野菜
曾我の屋農興株式会社	栃木県那須郡那須町	養豚
有限会社広野牧場	香川県木田郡三木町	酪農
株式会社近藤農園	香川県善通寺市	野菜
株式会社さかうえ	鹿児島県志布志市	野菜
株式会社ワタリ	東京都府中市	青果専門商社

※他にもたくさんの企業・農業法人から求人をいただいています。

◆青年海外協力隊隊員への希望者を推薦します！

海外農業研修から帰国後、研修経験を生かし青年海外協力隊隊員となり再び海外の現場で活躍される方もいます。JICA 青年海外協力隊事務局との覚書により、研修業種と青年海外協力隊職種が一致している海外農業研修修了者を本会から青年海外協力隊へ推薦することができます。推薦に際しては、本会の審査がありますが、推薦された場合は、青年海外協力隊の一次選考技術審査が免除されます。なお、本会からの推薦は研修修了日から5年以内、又は研修修了後に関連分野での業務に従事した人に限られます。

◆帰国後に仲間と繋がろう！【国際農友会】

海外農業研修から帰国された方は、世界各地で活躍をされています。そんな方々を繋ぐ役割を果たしているのが、研修生同窓全国組織の国際農友会です。

国際農友会は、海外農業研修で生まれた研修生同士の交流の横糸を、世代を超える縦糸に織り込んでいくことで、帰国された方同士の絆を深め、幅広い活動を展開していくことを目的に設立されました。国際農友会では、海外農業研修を目指す青年をバックアップするために、研修生サポート資金やアグトレマイレージ制度の運営、また海外農業研修の啓発活動を行っています。海外農業研修を経験された方はユニークで、バイタリティーにあふれています。農業を通したふれあい、海外での苦楽を理解できる者同士、一生の大切な仲間となっています。

国際農友会の活動例

○国際化対応営農研究会

全国を5つのブロックに分けて行われる勉強会（セミナー）です。

年に一度、優良な経営や栽培技術などの事例発表、世代や業種を超えた農業者同士の交流を目的に開催されています。

2019年度は、青森県、群馬県、福井県、愛媛県、鹿児島県で開催を予定しています。

詳しくは本会ホームページに紹介されます。

○研修生壮行会および帰国歓迎会

各都道府県にある研修生同窓会組織を中心に、出発前の研修生の壮行会や帰国した研修生の歓迎会を開催しています。海外農業研修に参加された先輩から出発前に研修成功のアドバイスや当時の経験談を聞けるだけでなく、帰国後同じ地域をけん引していく農業者としての繋がりを構築することができるまたとない機会です。



<ここでの絆は一生もの>



<帰国後はOB・OG 同士で広く繋がれる>

海外農業研修が教えてくれたこと

～判断するための材料を海外を含めて持っているから強みがあるんです～



広野正則さん

有限会社広野牧場 代表取締役
昭和47年度デンマークへ渡航。
ユトランド半島内の酪農場で研修を行う。1代で常時300頭を搾乳する香川県内有数の酪農場を築く。酪農教育ファーム認証農場であり地域内へ広く農業の魅力を伝える。農政への提言も多数行っている。

私がデンマークに渡航した1970年当時、日本は高度経済成長の真只中でした。田舎から都市部へと人が流れ、そんな時代に農業を志すことを家族からは反対されました。それでも農業を志し、農業大学校～北海道での実習を経てデンマークでの研修を行いました。振り返ると、農業者の地位の高さと彼らの働き方に驚いたことを覚えています。日本では農業を志すことを反対されましたが、デンマークでは農業が産業として成り立ち、地位ある職業として確立されていたのです。また、日本では朝から晩まで働くことが評価されていましたが、デンマークでは農家がしっかりと休暇を取りゆとりを持って暮らしていたことに驚きました。

物事は何でも外から見ないと分かりません。日本を外から見たことにより、その良し悪しが分かりました。海外へ行くことは、物事を判断するための材料を多く持つことに繋がります。これまでの人生の中で大きな判断をすることが少なからずありました。それでも自信を持って決断をすることができたのは、研修をやり遂げた自信と経験の積み重ねのおかげです。参加する皆さんには、「できるか、できないかを考えるのではなく、やるか、やらないか」ということを考えてもらいたいと思います。「無いもの」はたくさんあります。しかし、「無いもの」を「有るもの」に変えていく若い力こそ素晴らしい力です。

一緒に日本の農業を盛り上げていきましょう。

～チーズ職人 高橋雄幸の始まり～

新潟県黒川村職員だった私が、当時「村づくりは、人づくりから」という政治信念を掲げられた伊藤村長のもと、ドイツの酪農家で研修を行ったのが2002年3月。牛と山羊を200頭ずつ搾乳し、乳は全てチーズに加工していて、地元は勿論、輸出まで行い販売をしていた。また、バイオスタックを2基立ち上げ、450haと広大な畑を耕作していた。農場では、最初に山羊の搾乳や飼育管理、秋からは牛舎の仕事に入り、最後の2か月間をチーズ工場での研修した。黒川村から海外農業研修に参加された大先輩が、私の研修先まで訪ねてくださった。研修中に20kg体重が減ったこともあったが、大先輩からの有難い激励のおかげで研修にも身が入り有意義な研修を行うことができた。農場を旅立つ日、声を出して泣いたことは本当に良い思い出である。

帰国後すぐに黒川村へ帰り、村長へ挨拶に行った。「せっかくチーズの研修してきたんだから、新しい村の特産品作りで、君が担当でチーズ作ってみるかね？」と聞かれ、私は、「はい！やらせていただきます！」と、間髪入れずに返事をした。これが、チーズ職人高橋雄幸の誕生の瞬間だった。その後、村内の先輩諸氏にご指導いただき、チーズ工房をオープンすることができ、その結果、全国大会で審査員特別賞をいただいた。その後、結婚を機に栃木県那須町へ移住した。

現在は、(有)那須高原今牧場の加工部門として、チーズ工房をオープンし7年目に入った。この6年間、コンクールで金賞をいただいたり（写真はギャルド・エ・ジュレ叙任時）、JAL国際線ファーストクラス機内食に3回採用され、2018年11月にはフランスで開催された国際コンクールにも出品した。

まだまだ未熟者ではあるが、とにもかくにも熱心に、人より熱心に動き回りたいと思う。きっと、それが海外農業研修への恩返しになると思う。あのドイツでの1年があったからこそ、今の私がいる。これは、絶対に曲げられない事実であるし、次の世代にも是非とも海外農業研修を経験して貰いたいと強く願う。「覚悟を決めること」。大事なドイツでの一年間、私の人生で最も大切なことの一つを教わった。



高橋雄幸さん・ゆかりさん

(有)那須高原今牧場チーズ工房長
平成13年度ドイツへ渡航。ドイツの最北端、シュレースヴィヒ・ホルシュタイン州の酪農家で研修。帰国後、チーズ職人として多くの賞を受賞。那須ナチュラルチーズ研究会の立ち上げ、那須の食と観光を発信する「なすとらん倶楽部」の会長、「日本チーズ生産者の会」の副会長として活躍。



～海外農業研修あってこそその農業人生～

父を越えたいという思いがくすぶっていた20歳当時、何か圧倒的な経験が私には必要でした。農業大学校2年生の時にアメリカ農業研修の話聞き、「大きな世界へ飛び込み自分を変えたい」と、一瞬で研修参加を決意しました。私がアメリカで研修した農場は4,000haの広大な果樹農場でした。大規模ではありますが家族経営の農場で、家族と研修生の距離が近く、心あるとても恵まれた環境でした。

研修中に農場主から厳しく怒られたことがあります。トラクターでリンゴの剪定枝を集めていると「もっと早く運転しろ!!」。リンゴの収穫の際には、落果しているリンゴを1つ拾ってきて「これはひとつ50セントだ!これだけ広い農場でいったいいくら落ちていると思っているんだ!」と。1,000人のワーカーが働く大規模農場ではありますが、1つ1つ、一秒一秒を大切に、そうした積み重ねがこの農場の心髄であると感じました。今自分が若者に教える立場となって振り返ると、ひとりの日本人研修生を心から叱ってくれたことに感謝しています。また、仕事が終われば子供たちのバスケットボールを必死に応援するなど、公私にメリハリをつける農場主を見て、農業のカッコよさ、誇りを持って仕事する姿に憧れ、自分もそうなりたと思いました。

帰国後は『農場の大きさではアメリカに勝てないけれど、商品の品質やお客様一人一人に喜んでいただける、満足度で勝てるようにしよう』と、贈答観光果樹園を始めました。今では学生の前でアメリカ農業研修の経験を講演することもよくあります。子供のころは農業も英語も嫌いでしたが、海外農業研修によって人生が変わりました。

農業をしていて辛いと思うのも、楽しいと思うのも自分次第です。海外農業研修の経験から得た、挑戦する前向きな力、人のための農業というポリシーこそ、これからの時代を生きる力です。海外農業研修の経験と仲間が私の全ての礎です。素晴らしい研修、日本の未来を支え続けてくださっている海外農業研修の事業にとっても感謝しています。ありがとうございます。

石原直樹さん

石原果樹園 代表

平成6年度アメリカへ渡航。ワシントン州北部にある世界でも屈指の大規模果樹農場で研修。果物王国岡山県の8代目農家。贈答果物および観光農園として著名で、シーズン中は多くのお客さんが果物狩りに訪れ賑わう。

～種を蒔いても芽が出るとは限らないが、蒔かなければ100%芽は出ない。とにかくやってみる～

「アメリカへ農業を学びに行く!」そう決めた当時の私は農業大学校生。小さなイチゴ農家の長男。農家を志してはいたものの、どうしても将来への不安が消えませんでした。聞こえてくるのは、農業は厳しいという声ばかり。当時の私はそういった声に翻弄されていました。

そんな中この研修を知り、自分でも驚くほど一瞬で参加を決めました。強い農業を学びたいという建前でしたが、周りの声に心を乱されるような弱い自分を変えたいという気持ちもあったように思います。

渡米した私は、カリフォルニア州の農場で研修を行いました。砂っぽく乾いた風、息をのむような夕焼け、メキシコ人がトルティーヤを炙る香ばしい匂い、自分が見知っていた日本の農家の姿とは全く違う農園の在り方、人々が農園に対して持っているイメージ、農場主の経営者としての目線、誇り...何もかもが新鮮で、何もかもが勉強の毎日でした。

私はアメリカでの研修を通して、自分で考え責任を持って行動する「主体性」を培うことができました。そしてとにかく自分でやってみる。

主体性を持って行動し客観的に物事を見つめ直せるようになると、経営も自分の生活も含めて、知らない内に人任せになっていた所が驚くほど沢山あることに気が付きました。できないことを人任せ(人のせい)にするのは楽ですが、それでは課題の発見や解決に繋がりません。そして自分で考え決めたことであれば、それがどう転ぼうと胸を張れるのです。

現在はこの研修で知り合った妻と結婚し、強い経営をしていくことはもちろん、人々の心のよりどころとなり得るような暖かな農園を目指して二人で経営を行っています。帰国してからは講習助手として研修生達のお世話もしています。みなさん、アメリカ事前講習・西日本講習所で会いましょう!



飯田正悟さん・忍さん

飯田家族農園

平成22年度アメリカへ渡航し帰国後結婚。正悟さんは南カリフォルニア州、忍さんはワシントン州の都市近郊有機野菜農場で研修。「やさしいイチゴで家族を笑顔に」をコンセプトにさがほのかを栽培する。訪花昆虫で在来種のニホンミツバチ保護にも取り組む。

アメリカ・オーストラリア

(応募資格と募集人数・応募から渡航まで・研修に必要な費用)

応募資格と募集人数

各研修コースの応募資格は以下の通りです。

- (1) 日本国籍を持つ独身男女で、心身共に健全である方。
現在治療中の怪我や病気（精神疾患を含む）がある方は、医師の診断書を提出していただきます。
- (2) 明確な研修目的を持っている方。
- (3) 外国語を学ぶ強い意欲を持っている方。
- (4) 海外農業研修で専攻する業種について、十分な農業経験がある方、または渡航までに十分な農業経験を積むことができる方（概ね2か月以上）。
- (5) 事前講習までに普通自動車運転免許を取得している方。AT限定の方は渡航までに限定を解除してください。
また、トラクター等の農業機械類を使用する可能性があるため、渡航までに大型特殊免許（農耕車限定も可）を取得しておくことを勧めます。
- (6) 犯罪歴が無い方。
- (7) 次の表の各コースの資格条件に該当する方。

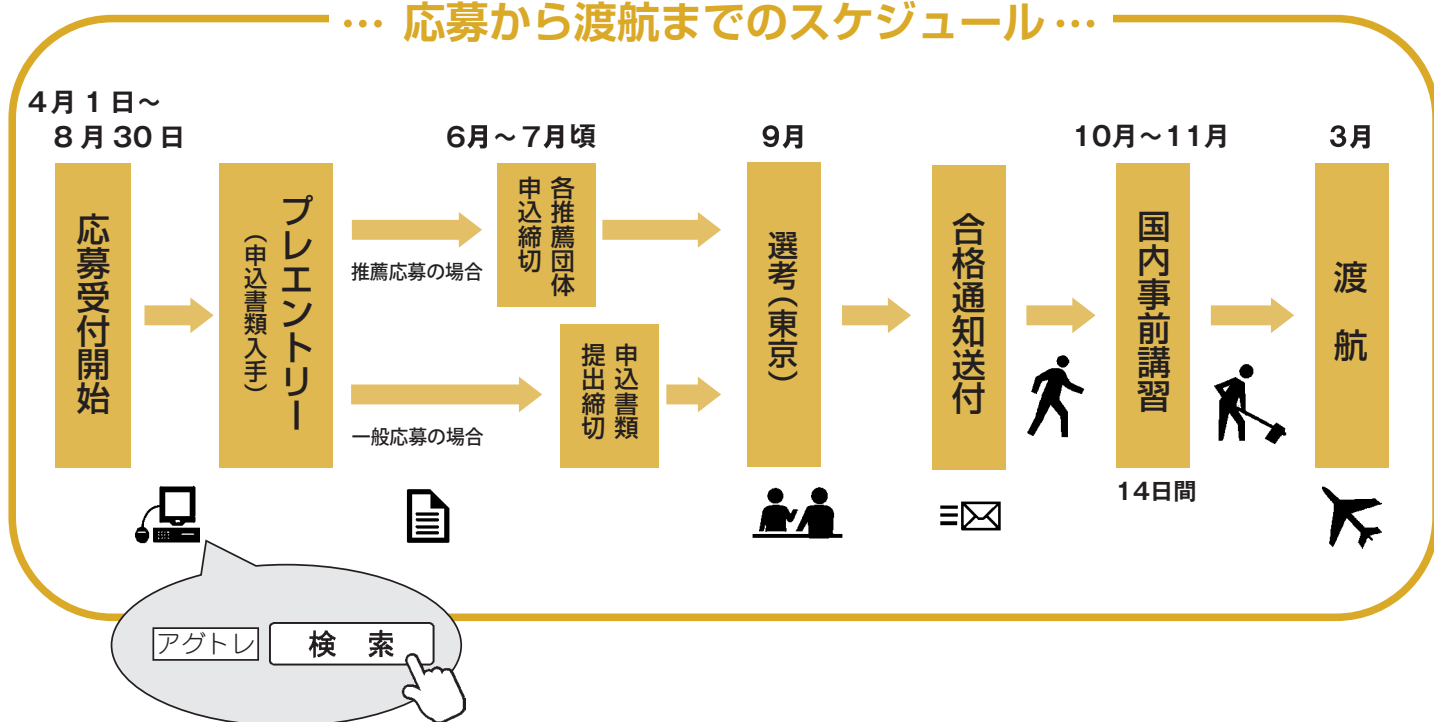
研修コース	応募年齢 (生年月日が以下の期間に 当てはまる方)	学歴等	募集人数
アメリカ	1990年4月2日 ～ 2001年4月1日	高等学校卒業、または同等以上の学力を有し、農業の基礎知識や経験がある方。	70名
オーストラリア	1990年4月2日 ～ 2001年4月1日	高等学校卒業、または同等以上の学力を有し、農業の基礎知識や経験があり、ワーキングホリデービザの発給条件を満たす方。	20名

なお、資格条件は研修先国の事情により、変更される可能性があります。応募の条件に合わない場合、本会へ連絡の上、ご確認ください。

海外へ渡航することから、パスポートが必要になります。査証の取得等に関わる手続きがあるため、現地滞在予定期間より余裕があるパスポートをお持ちかどうかご確認ください。まだ取得していない方、または帰国日までに有効期限が切れてしまう方は、予めご相談ください。

応募から海外渡航まで

… 応募から渡航までのスケジュール …



1. 申し込み

①『プレエントリー』をする。

- 本会のホームページにアクセスしてください。インターネット上で「アグトレ」または「JAEC」と検索するとアクセスできます。
- 本会のホームページの応募ページからプレエントリーボタンをクリックし、申込フォームを開いてください。
- 必要事項を入力し送信してください。
- 平日の3～4日以内にご登録いただいた電話番号へ連絡させていただきます。
- 連絡がとれた後、ご登録いただいたEメールアドレスへ申込書類をお送りします。

プレエントリー期間

募集：2019年4月1日（月）～2019年8月22日（木）

※健康診断に時間がかかったり、推薦応募の締切りに間に合わなくなる恐れがあるので、プレエントリーは余裕をもって行ってください。

Eメールがご利用できない方へは申込書式を郵送することも可能ですが1～2週間ほどかかる場合があります。

②応募する

応募方法は「推薦応募」または「一般応募」があります。プレエントリー後に送られてくる申込書式に必要な事項を記入していただき、次の手順で送付をしてください。

★推薦応募の場合

出身または就農予定の都道府県知事、本会が認める団体長から推薦をしてもらい応募をする方法です。応募書類の提出先は、都道府県の担当課又は推薦団体窓口となります（P.34 参照）。推薦を得るにあたって、書類審査、面接、試験等が実施される場合があります。

＜海外農業研修推薦資格を持つ認定団体＞

- | | |
|--------------|----------------|
| ・北里大学獣医学部 | ・公益財団法人北海道農業公社 |
| ・東京農業大学 | ・東京国際農業者協会 |
| ・酪農学園大学 | ・京都府国際農業者交流協会 |
| ・拓殖大学北海道短期大学 | ・大阪府国際農業交流協会 |
| ・帯広畜産大学 | ・福岡県国際農業者交流協会 |
| ・日本農業経営大学校 | ・八ヶ岳中央農業実践大学校 |

推薦応募は各都道府県、推薦団体ごとに応募締切日を設けています。

都道府県及び推薦団体により応募締切日が異なります。例年 6 月～7 月に締め切ることがありますので、詳細についてはお早めに県庁担当課及び団体窓口（P.34 参照）へお問い合わせください。

★一般応募の場合

海外農業研修参加希望者が直接本会へ応募する方法です。申込書類を本会へ送付してください。

申込締切（本会必着日）：2019 年 8 月 30 日（金）

2. 選考

● 選考日と会場

選考日：2019 年 9 月 16 日（月・祝日）及び 9 月 17 日（火）

選考会場：東京都内

※選考日にご都合がつかない理由がある方は JAEC までご相談ください。

応募者への選考のご案内は 9 月 2 日（月）以降に発送の予定です。

なお、合否通知は 2019 年 10 月 3 日（木）までに発送します。

● 選考方法

【推薦応募】

- ・書類審査
- ・面接（英会話を含む）

【一般応募】

- ・書類審査
- ・筆記試験（英語、農業、作文）
- ・面接（英会話を含む）

※日本農業技術検定協会が実施する日本農業技術検定 3 級以上を取得している方は、農業一般の試験を免除します。TOEFL iBT32 点以上、または、TOEIC490 点以上、IELTS band score4.0 あるいは、英検準 2 級以上を取得している方は英語の筆記試験を免除します。該当の場合、お申し込みの際に証明書等の写し（コピー）を同封してください。

● 選考費用

- ・推薦応募の場合 8,000 円
- ・一般応募の場合 13,000 円

選考費は選考会場にて現金でお支払いいただきます。

3. 合格後から海外渡航まで

海外農業研修参加にあたり、渡航前の準備を行うため事前講習及び出発時講習に必ず参加していただきます。

※講習会場までの往復交通費は研修生の負担となります。

● 事前講習

海外農業研修生として渡航するための準備と心構えを、外国語集中学習、体力トレーニングなどを通じて、一緒に渡航する研修生同士で学びます。

また、渡航に関わる重要な書類作成や研修希望農場に関する面接も行いますので、全日程に参加してください。

【アメリカ】

講習時期：2019年11月上旬開始予定（14日間）

講習会場

東日本：茨城県内を予定

西日本：大分県内を予定

講習会場はプレエントリー時に選択してください。

【オーストラリア】

講習時期：2019年11月上旬開始予定（14日間）

講習会場：茨城県内を予定

● 待機期間

事前講習から出発時講習までの期間は、語学学習や農業実習など各自で渡航に向けた準備を行う待機期間となります。本会は、研修生の必要に応じて農業実習先の手配、語学の指導、研修先国査証や入国手続き等を行います。

※アメリカコースでは、東京の米国大使館にて出発時講習の3～4週間ほど前（2月下旬あるいは3月上旬に1日のみ）に米国入国査証取得のために義務付けられている面接を受けます。

● 出発時講習

渡航に合わせて研修生全員が集合し、講習を行います。

【アメリカ】

講習時期：2020年3月下旬の2泊3日間を予定

講習会場：東京都内

【オーストラリア】

講習時期：2020年3月下旬の2泊3日間を予定

講習会場：東京都内

● 渡航予定時期

【アメリカ】 2020年3月下旬

【オーストラリア】 2020年3月下旬

それぞれの研修先国へグループで渡航します。



事前講習の様子

研修に必要な費用

(1) 費用について

研修参加に際して、下記の費用が必要になります。

研修コース	研修参加申込金	研修費	含まれるもの	含まれないもの
アメリカ	300,000 円	850,000 円	国内講習参加費、渡航前経費（査証申請等）、渡航時経費（往路航空運賃等）、帰国時研修経費、帰国者活動費、団体保険料、事務管理費 ※現地研修費を現地にて積み立てます。金額については渡航人数が確定した際に算出されます。	現地到着時小遣い、 海外旅行保険料
オーストラリア		1,240,000 円	国内講習参加費、渡航時経費（往復航空運賃等）、現地研修費（基礎学習等）、帰国時研修経費、帰国者活動費、団体保険料、事務管理費 ※現地研修中の宿泊及び食費、ワーキングホリデービザ申請料は含まれていません。	

● 研修参加申込金

海外農業参加にあたり合格後お支払いいただきます。

<金額> 300,000 円

<納付期限> 2019年10月15日（火）

※研修参加申込金は、特別な理由がない限り返金の対象としません。

● 研修費

海外農業研修中に発生する経費に充てられる費用です。金額は各コースとも上表に定めたとおりです。

<納付期限> 2020年1月31日（金）

● 納付先

公益社団法人 国際農業者交流協会

みずほ銀行蒲田支店 普通預金 3151510 シャ)コクサイノウギョウシャコウリュウキョウカイ

● 研修参加費に含まれないもの

① 現地到着時小遣い

農場実習中には農場から実習手当を受け取りますが、現地到着時のオリエンテーションや基礎学習中、農場配属直後の小遣いを用意していただく必要があります。

アメリカコースは、3～5万円程度を目安に現地通貨でお持ちください。オーストラリアコースは研修農場から実習手当を受け取るまでの期間に発生する経費（個人的な消耗品や食費）、また、口座開設時の元金用として、渡航の際に現金 1,500AUD 程度をお持ちください。

② 海外旅行保険

現地の医療保険が高額であるため、協会にて指定する海外旅行保険に渡航前に加入していただきます。保険料は渡航から帰国までの全期間で、アメリカコースはおよそ 25 万円、オーストラリアコースはおよそ 16 万円です。

(2) 辞退および延期について

● 辞退

合格後、研修を辞退する場合、協会へ辞退届を提出していただきます。

● 渡航の延期

合格後、研修生の健康状態、海外農業研修に対する準備不足（語学力、作業能力等）が認められる場合、渡航を次年度以降へ延期することがあります。その際には、速やかに所定の延期手続きを行います。

● 合格取消

合格後、渡航までの間に、研修生として不適格と認められる事実が判明した場合、合格を取り消すことがあります。

● キャンセレーション費用

- ① 辞退、延期、合格取消の場合、それまでの手続きにかかった経費を精算します。
- ② 研修費納入後は、それまでの手続きにかかった経費を精算し残金を返金します。なお、渡航日の1週間前から渡航日までに研修を辞退した場合は、研修費の全額を返金しません。
- ③ 延期した場合、支払った研修参加申込金は翌年度の研修参加申込金として充当します。ただし、2回目の事前講習参加に際して、その費用(100,000円)を別途納入していただきます。
- ④ 不測の事態による渡航の延期・中止の際には、妥当な範囲で経費の精算を行います。

(3) 各種支援制度の利用について

① 農業人材力強化総合支援事業（P.31 参照）

国並びに都道府県、市町村等の支援事業である農業次世代人材投資事業（旧青年就農給付金事業）、農の雇用事業、及び海外留学・研修助成金制度等を活用できる場合があります。詳細については、出身或いは推薦を受ける都道府県、市町村へお問い合わせください。

② 奨学金制度

《バイエル スカラーシップ》

バイエルの出資による、海外農業研修生を支援するための奨学金制度です。事前講習中に所定の書類を提出し、海外農業研修中に農業技術・経営の習得意欲が高く、将来日本農業貢献に寄与できると同奨学金の選考委員会により選出された方に給付されます。事前講習中に詳しい説明があります。

給付額：200,000円 / 人 給付人数：5名以内 / 年

《国際農業交流事業推進基金 研修生サポート資金》

研修参加者の資金不足をサポートする目的で、しっかりとした海外農業研修の目的と返済の計画を立てれば、1人当たり50万円まで無利子でご利用いただけます。アグトレマイレージ制度を利用し特定の条件を満たした方に優先的に貸与されます。

《アグトレマイレージ制度（P.16 参照）》

海外農業研修に参加するために、農業経験を積みながら、研修経費を貯めることができる制度です。本会が指定する農家で実習をすることで、実習期間に応じてポイントが貯まり、各種特典が受けられるようになります。（原則3か月以上の実習に適用）

ヨーロッパ・その他の国々

(応募資格と募集人数・応募から渡航まで・研修に必要な費用)

応募資格と募集人数

各研修コースの応募資格は以下の通りです。

- (1) 日本国籍を持つ独身男女で、心身共に健全である方。
現在治療中の怪我や病気（精神疾患を含む）がある方は、医師の診断書を提出していただきます。
- (2) 明確な研修目的を持っている方。
- (3) 外国語を学ぶ強い意欲を持っている方。
- (4) 海外農業研修で専攻する業種について、十分な農業経験がある方、または渡航までに十分な農業経験を積むことができる方（概ね2か月以上）。
- (5) 渡航の3か月前までに普通自動車運転免許を取得している方。AT限定の方は渡航までに限定を解除してください。
また、トラクター等の農業機械類を使用する可能性があるため、渡航までに大型特殊免許（農耕車限定も可）を取得しておくことを勧めます。
- (6) 犯罪歴が無い方。
- (7) 研修先国で必要とされる語学力（デンマーク・オランダは英語、ドイツ・スイスはドイツ語）を備えている方、または渡航までに十分な語学力を備えることができる方。
- (8) 次の表の各コースの資格条件に該当する方。

研修コース	応募年齢 (生年月日が以下の期間に 当てはまる方)	学歴等	募集人数	
ヨーロッパ	デンマーク	19歳～29歳	高度農業教育を2年以上受けており、専攻業種に関する科目を履修している在学中の学生で、基礎英会話力を備え、IELTSのテストでband score 3.0以上である方。	若干名
	ドイツ	19歳～30歳	高度農業教育を2年以上受けており、専攻業種に関する科目を履修している在学中の学生。あるいは、ドイツ受入機関が受入可能と認める専攻業種に関する十分な経験を有する方。	若干名
	スイス	19歳～29歳	高度農業教育を2年以上受けており、専攻業種に関する科目を履修している方。なお、高度農業教育機関卒業後、1年以上農業外の産業に従事した方は不可。	7名
	オランダ	19歳～26歳	学士号以上の学位が取得可能な大学の農業教育を2年以上受けており、専攻業種に関する科目を履修している方で、研修期間中に休学できる方。あるいは、専攻業種に関する学士号以上の学位を取得し、当該学位を取得した大学卒業後2年を経過していない方。	10名
その他の国々 (カナダ、イギリス、 アイルランド、 フランス等)	概ね18歳～30歳	高等学校卒業、または同等以上の学力を有し、農業の基礎知識や経験があり、研修先国のワーキングホリデービザ発給等の要件を満たす方。詳細はご確認ください。	若干名	

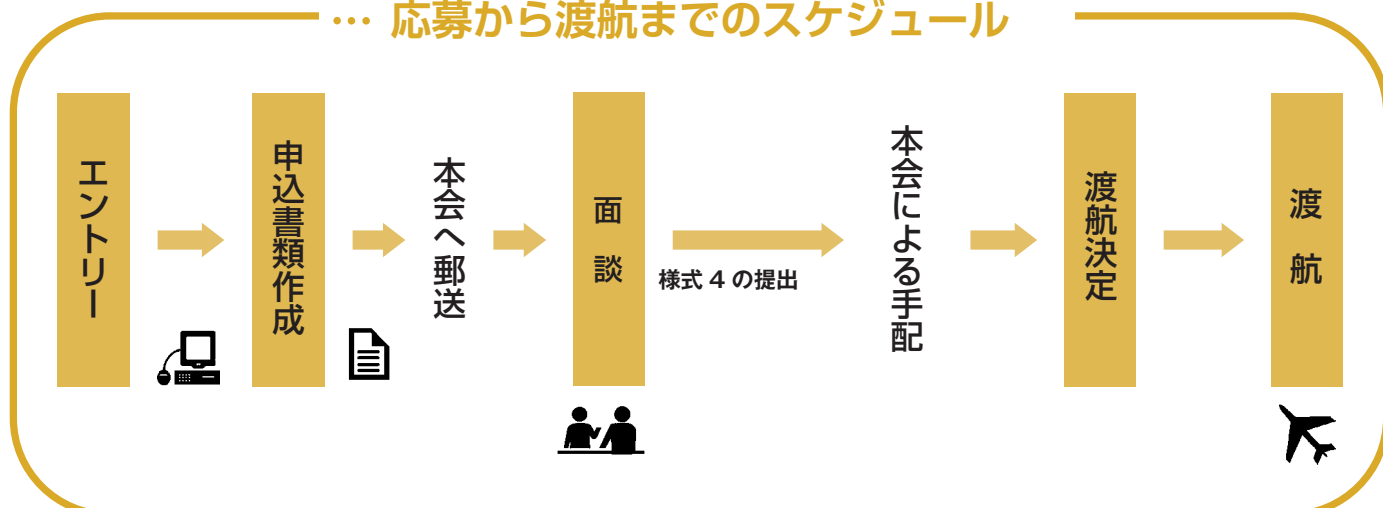
なお、資格条件は研修先国の事情により、変更される可能性があります。応募の条件に合わない場合、本会へ連絡の上、ご確認ください。

※表中の「高度農業教育」とは農業大学校、農業専科大学、大学農学部あるいは準ずる学部、専門学校等の教育機関における履修のことです。

海外へ渡航することから、パスポートが必要になります。査証の取得等に関わる手続きがあるため、渡航のために必要な期間有効なパスポートをお持ちかどうかご確認ください。

応募から海外渡航まで

… 応募から渡航までのスケジュール



1. 『エントリー』をする

- 本会のホームページにアクセスしてください。インターネット上で「アグトレ」または「JAEC」と検索するとアクセスできます。
- 本会のホームページの応募ページからヨーロッパコース及びその他の国々へのエントリーボタンをクリックし、申込フォームを開いてください。
- 必要事項を入力し送信してください。
- 平日の3～4日以内にご登録いただいた電話番号へ連絡させていただきます。
- 連絡がとれた後、ご登録いただいたEメールアドレスへヨーロッパコース及びその他の国々への申込書類をお送りします。

2. 応募する

ヨーロッパコース及びその他の国々への申込書類を本会へ送付してください。

※スイスコースを除くヨーロッパコース及びその他の国々に関する申込書類は通年で受け付けています。

※スイスコース申込書類提出締切（本会必着日）：2019年8月30日（金）

3. 面談をする

応募者と電話またはメールにて面談日を取り決め、東京都内の本会事務所にて面談を行ない応募者の意向を確認し、各国受入機関と協議を行なった上で、応募者の受入の可否を決定します。

4. 海外農業研修手配依頼書の提出をする

受入可能と決定した応募者は「海外農業研修手配依頼書」（様式4）を本会に提出します。

5. 待機期間（渡航の準備）

海外農業研修手配依頼書提出から出発までの期間は、語学学習や農業実習など各自で渡航に向けた準備を行うとともに渡航手続きを行なっていく待機期間となります。渡航前に研修を理解するためのオリエンテーションを実施します。

6. 渡航

本会、現地受入機関、応募者で相談し決定した日に渡航します。

研修に必要な費用

(1) 費用について

研修参加に際して、下記の費用が目安として必要になります。研修費はあくまでも目安となるため、研修期間および内容に応じて実際とは異なります。

研修コース	研修参加申込金	研修費	含まれるもの	含まれないもの
ヨーロッパ	200,000 円	デンマーク 450,000 円 (1 年の場合)	渡航前経費（査証申請等）、 現地研修費 (スイスは語学研修を含む)、 帰国者活動費、 事務管理費 ※スイスは現地研修費の一部を現地に於て積み立てます。	往復航空運賃等の 渡航時経費、ワーキングホリデービザの場合の申請料、 海外旅行保険料、 現地到着時小遣い、 研修農場が複数となる場合の追加の経費
		ドイツ 200,000 円 (3 か月の場合)		
		スイス 650,000 円 (1 年)		
		オランダ 390,000 円 (6 か月の場合)		
その他の国々		要相談		

● 研修参加申込金

海外農業参加にあたり受け入れの可否決定後お支払いいただきます。

<金額> 200,000 円

<納付期限> 海外農業研修手配依頼書（様式 4）提出確認日から 14 日以内

※研修参加申込金は、特別な理由がない限り返金の対象としません。

● 研修費

海外農業研修中に発生する経費に充てられる費用で、渡航前までにお支払いいただきます。

<金額・納付期限> 本会から指示します

● 納付先

公益社団法人 国際農業者交流協会

みずほ銀行蒲田支店 普通預金 3151510（シャ）コクサイノウギョウシャコウリュウキョウカイ

● 研修参加費に含まれないもの

① 現地到着時小遣い

農場実習中には農場から実習手当を受け取りますが、現地到着時および農場配属直後の小遣いを用意していただく必要があります。

研修先国によって異なりますが、3～5万円程度を目安に現地通貨でお持ちください。

② 海外旅行保険

研修中の怪我や病気の治療、また、死亡、後遺障害、その他損害賠償等の補償のために、協会が指定する一定の補償額の海外旅行保険に必ず加入することとなりますが、研修先国の健康保険等の適用が受けられる場合、海外旅行保険への加入は任意となります。

(2) 辞退および延期について

● 辞退

海外農業研修手配依頼書（様式 4）提出後、研修を辞退する場合、協会へ辞退届を提出していただきます。

● 延期

研修生の健康状態、海外農業研修に対する準備不足（語学力、作業能力等）が認められる場合、渡航時期を延期することがあります。

● 受入取消

渡航までの間に、研修生として不適格と認められる事実が判明した場合、研修受入を取り消すことがあります。

● キャンセレーション費用

- ① 辞退、延期、合格取消の場合、それまでの手続きにかかった経費を精算します。
- ② 研修費納入後は、それまでの手続きにかかった経費を精算し残金を返金します。なお、渡航日の1週間前から渡航日までに研修を辞退した場合は、研修費の全額を返金しません。
- ③ 不測の事態による渡航の延期・中止の際には、妥当な範囲で経費の精算を行います。

(3) 各種支援制度の利用について

① 農業人材力強化総合支援事業（P.31 参照）

国並びに都道府県、市町村等の支援事業である農業次世代人材投資事業（旧青年就農給付金事業）、農の雇用事業、及び海外留学・研修助成金制度等を活用できる場合があります。詳細については、出身或いは推薦を受ける都道府県、市町村へお問い合わせください。

② 奨学金制度

協会の海外農業研修に参加し一定の資格条件を満たす方は、協会の奨学金制度を利用することができます。

《アグトレマイレージ制度（P.16 参照）》

海外農業研修に参加するために、農業経験を積みながら、研修経費を貯めることができる制度です。本会が指定する農家で実習をすることで、実習期間に応じてポイントが貯まり、各種特典が受けられるようになります。（原則3か月以上の実習に適用）

公的資金を活用して、海外農業研修へ参加できます

◆農業次世代人材投資事業（旧青年就農給付金事業） 監督官庁：農林水産省

次世代を担う農業者を目指す方に対し、就農の検討・準備段階から就農開始を経て経営を確立するまでの一連の流れを総合的に支援する事業です。準備型と経営開始型に分かれ、海外農業研修は準備型の対象となっています。

対象者：海外農業研修修了後に就農する方 ※オーストラリアコースは対象外となります

交付額：アメリカコース参加の場合 225 万円まで

ヨーロッパコース参加の場合、研修期間が 1 年の方に限り 150 万円まで

交付条件：海外農業研修修了後 1 年以内に就農すること

他にも条件がいくつかあり達成できない場合は返還となる

ヨーロッパコースの場合は研修期間が 1 年の方に限られる

相談窓口：就農を予定している都道府県、または全国農業会議所

詳しくは農林水産省のホームページをご確認ください。

～申請から交付の流れ（本会を通じて行うアメリカコースの場合）～



◆トビタテ！留学 JAPAN 監督官庁：文部科学省

官民協働のもと社会総掛かりで取り組む「留学促進キャンペーン」です。

対象者：休学して海外農業研修へ参加される方

交付額：審査認定された留学計画に従い交付額が決定

相談窓口：在籍大学の学生課等

詳しくは、トビタテ！留学 JAPAN のホームページをご確認ください。

本会が上記のような公的資金利用者に対し特別な便宜を図る場合、別途事務手数料を申し受けます。

～俺ら海外さ行くだ～ 農業次世代人材投資資金を利用して海外農業研修に参加しました

亀澤 圭さん 平成 28 年度アメリカコース参加 野菜専攻 2017 年 3 月～ 2018 年 10 月研修

「テレビも無工 ラジオも無工 自動車もそれほど走って無工」

という理由で海外に行こう、と思ったわけではなく海外の農業事情を五感で体感したいと思い、また食文化や言語、そこで生きる人々の生活や物事に対する考え方、自然に対する営みなどに惹かれこの研修に参加したいと思いました。しかし応募を試みた矢先、次のことに気づき研修参加を断念しようと考えました。

「研修参加申込金が払え無工 研修費も払え無工 手元に残っているお金なんてほとんど無工」

大学では奨学金も借りていましたし、月々の家賃や光熱費も払い終わっていない。これ以上親には頼れない…。このまま海外への憧れを捨てるのか…と。

そんな時に知ったのが「農業次世代人材投資資金（旧青年就農給付金）」でした。この交付金は国が次世代の農業を担おうと志向する人に対し、就農前の研修を後押ししてくれる制度です。様々な条件を満たし、農業への希望や自分の目標などを明確にする必要がありますが、条件を満たせば最長 2 年間、年間 150 万円の交付を受けることができます。

私はこの投資資金のおかげで海外農業研修に参加でき、掛け替えのない経験をアメリカですることができました。日本国内外の農業に興味を持ち、将来農業に携わりたいという夢を持っているにも関わらず、金銭的な理由で研修をあきらめるのはもったいないと思います。

今まで出会ったことのない世界へ、未知なる自分を探しに国から研修のサポートをしてもらい海外農業研修に参加しませんか？心に決めたら後は行動に移すだけ。

俺ら海外さ行くだ！よし、行くぞう！



農場の仲間も和む笑顔

よくあるご質問

Q1. なぜ今の時代に海外へ？

インターネットの発達やソーシャル・ネットワーク・サービスの普及により、海外がより身近に感じる昨今。海外での生活風景や流行がスマートフォンの画面に写し出され、まるで遠い国ではないかのような錯覚にもなります。昭和27年に、この海外農業研修が始まり67年が経ちました。当時と比べ、技術が進歩し周りの環境や海外に出る目的も異なってきています。農業の側面からいえば、戦後の高収量を目指す農業から、品質や環境に優しい持続可能な農業が重視されています。

一方、文豪の夏目漱石、戦後復興の立役者であり実業家の白州次郎、近代日本美術の発展に大きな功績を残した思想家の岡倉天心といった人物が共通することは海外で学び、日本に貢献したことでしょう。

インターネットがあれば、うわべのことは知ることができるでしょう。しかしその世界に入り込み、同じ釜の飯（同じ一斤のパン）を食べ生活を共にすることで、その国の良いところも悪いところも見えてきます。それが海外に飛び出す醍醐味であり、真の『学び』なのではないでしょうか。

Q2. 海外農業研修へ参加するためには、どのくらいの農業経験が求められますか？

渡航前にしっかりと農業経験を積んでいれば、それが自信へと繋がり海外での研修効果はより高まります。専攻する業種にもよりますが、2か月程度は農業現場に身を置き経験を積んでいただくことが良いでしょう。まずは国内でしっかりと農業経験を積んでから海外農業研修へ参加したいと、アプレンティスシップを利用する方もいます。農業経験がない方はまず、海外農業研修へ参加する前に「農業が自分に合っているのか」見極める機会を持っていただきたいと考えています。

Q3. 語学に自信がありません・・・現地で生活できるでしょうか？

海外と聞いた途端、「外国語を話すなんてできない、外国で暮らすなんてできない」とあきらめてしまう方がいます。しかし、60年以上続く海外農業研修では、語学が苦手な方、はじめて海外へ行く方もたくさん参加されましたが、現地での研修を全うし帰国されています。

選考に合格した後すぐに渡航するわけではなく、渡航までの待機期間に語学を身に付ける時間を設けています。特にアメリカコース、オーストラリアコースでは合宿形式で行う2週間の事前講習にて、講習スタッフ、語学講師が、海外農業研修に必要なコミュニケーション方法について語学力向上をサポートします。

Q4. 大学を休学して参加できますか？

できます。今では休学して参加する応募者が年々増え、ヨーロッパではほとんどのコースが休学生を対象としています。また、「トピタテ！留学 JAPAN」の奨学金を利用する研修生もいます。また、海外で学んだことを生かして研究や就職活動に励むのも一つの選択肢です。

Q5. 海外での生活や治安が心配です。

研修農場のほとんどが、人が集まる都市部ではなく穏やかな地方にあります。本会ではアメリカのワシントン州シアトルに米国支部を置き日本人スタッフが常駐し、ヨーロッパでは長年研修生の研修サポートを行っている欧州現地研修生サポーターが、オーストラリアでも現地受入機関の担当者が万が一のトラブルに備えています。また、現地トラブルへの対処法や生活の注意点なども渡航前に学びます。

Q6. 選考の倍率は？面接では何を聞かれますか？一般応募の筆記試験のレベルは？

海外農業研修の選考は落とすための試験ではありませんので倍率は算出していません。できるだけたくさんの方に参加していただきたいと考えています。

選考の面接では、海外農業研修を志した理由や、帰国後の計画、そして本当にこの研修が適しているのかを確認させていただきます。また、外国語でのコミュニケーション能力を判断するため、日常会話程度の英語力を面接内で確認させていただきます。

一般応募の筆記試験は、英語は英検 4 級程度、農業は農業技術検定 3 級程度となりますので、決して高いハードルではありません。作文は日本語で、自己表現力を確認させていただきます。

Q7. 研修農場の希望はできますか？研修農場は、いつ、どのように決まりますか？

希望はできますが、現地の状況が変わることがあり、100%希望に添えない場合があります。研修農場は何度かの個人面接を経て決まっていきます。渡航前に希望業種や研修内容について確認をします。その後、各国の日本人農業研修生受入機関と協議し、受入農場主の合意を得た上で研修農場が決まります。アメリカコースの場合は現地に渡航してから再度面接を行い、最終的な研修農場の調整を行った後の 5 月上旬に決まります。オーストラリアコース、ヨーロッパコースの場合、渡航前に研修農場が決まります。

Q8. 研修農場での待遇はどのようになりますか？

研修生と受入農場との間で合意された内容に従い、作業時間や休日が決められ研修を行います。宿舎は農場が手配し、食事は農場で用意されるか、自炊となります。また、農場から支給される実習手当を用いて、現地で生活することも海外農業研修の醍醐味です。さらに、病気や怪我に備え、海外旅行保険に加入します。ヨーロッパは現地の健康保険に加入することもあります。

Q9. 海外農業研修参加に不安があります。

まずは本会までご相談ください。これまでの経験や帰国後の計画等を伺わせていただき、参加について一緒に考えましょう。若い時にしか参加できない研修プログラムですので、何でもやってみようという心積もりでいることが、海外農業研修の効果と充実感を高めることとなります。また、在住地域で営農されている海外農業研修経験者をご紹介させていただくこともできます。農作業を行いながら海外農業研修の経験談を聞くことで、より参加を前向きに考える機会となるでしょう。

Q10. どのような資格が取れますか。

公に認められる資格は取得できませんが、海外農業研修を修了された方へは証明書を発行しています。履歴書等にも書くこともできます。また、帰国後、語学の試験を受験し、高いスコアを取られる方がいます。就農や就職活動においては、海外農業研修経験者のネットワークに加わることで、あなたの将来の計画にお役立ただけです。

Q11. 帰国後の進路が心配です。

卒業後すぐに研修に参加し、帰国後に就農や就職ができるか心配になるでしょう。このプログラムでは 14,800 名を超える OB・OG を輩出し、様々な分野で活躍され、そのネットワークは全国規模となります。現在経営者となっている先輩も多く、本会にも多くの求人をいただいています。

また、研修を終えた研修生が就職し、その評判から本会に求人をお願いすることも多い無料職業紹介所として就農、就職をバックアップしています。

詳しくは P.17「帰国後について」を参照ください。

海外農業研修お問い合わせ先 (2019年1月現在)

<実施団体>



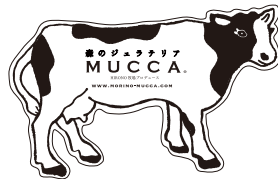
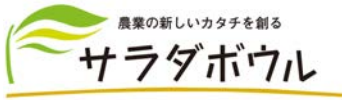
公益社団法人 国際農業者交流協会 The Japan Agricultural Exchange Council ホームページ: <http://www.jaec.org/>

〒144-0051 東京都大田区西蒲田5-27-14 日研アラインビル8階 TEL: 03-5703-0252 FAX: 03-5703-0255 E-MAIL: agtre@jaec.org

<都道府県、推薦教育機関>

No.	都道府県	担当課	郵便番号	住所	電話番号
1	北海道	公益財団法人北海道農業公社経営継承推進支援推進室	060-0005	札幌市中央区北五条西6-1-23 北海道通信ビル6F	011-271-2255
2	青森県	青森県農林水産部構造政策課	030-8570	青森市長島1-1-1	017-734-9463
3	岩手県	岩手県農林水産部農業普及技術課	020-8570	盛岡市内丸10-1	019-629-5656
4	宮城県	宮城県農林水産部農業振興課	980-8570	仙台市青葉区本町3-8-1	022-211-2836
5	秋田県	秋田県農林水産部農業研修センター	010-1231	秋田市雄和相川字源八沢34番1号	018-881-3611
6	山形県	山形県農林水産部農業経営・担い手支援課	990-8570	山形市松波2-8-1	023-630-3088
7	福島県	福島県農林水産部農業支援総室農業担い手課	960-8670	福島市杉妻町2-16(西庁舎5階)	024-521-7340
8	茨城県	茨城県農林水産部農業経営課担い手・参入支援室	310-8555	水戸市笠原町978-6	029-301-3846
9	栃木県	栃木県農政部経営技術課	320-8501	宇都宮市埴田1-1-20	028-623-2317
10	群馬県	群馬県農政部農業構造政策課	371-8570	前橋市大手町1-1-1	027-226-3064
11	埼玉県	埼玉県農林部農業支援課新規参入支援担当	330-9301	さいたま市浦和区高砂3-15-1	048-830-4051
12	千葉県	千葉県農林水産部担い手支援課	260-8667	千葉市中央区市場町1-1	043-223-2820
13	東京都	東京都産業労働局農林水産部農業振興課普及担当	163-8001	新宿区西新宿2-8-1	03-5320-4835
14	神奈川県	神奈川県農業技術センター企画経営部	259-1204	平塚市上吉沢1617	0463-58-0333
15	新潟県	新潟県農林水産部経営普及課	950-8570	新潟市中央区新光町4-1	025-280-5300
16	山梨県	山梨県農政部農業技術課	400-8501	甲府市丸の内1-6-1	055-223-1619
17	長野県	長野県農政部農村振興課担い手育成係	380-8570	長野市南長野字幅下692-2	026-226-7243
18	静岡県	静岡県経済産業部農業局農業戦略課農業戦略班	420-0853	静岡市葵区追手町9-6	054-221-3611
19	富山県	富山県農林水産部農業経営課	930-8501	富山市新緑曲輪1-7	076-444-3266
20	石川県	石川県農林水産部農業政策課農業参入・経営戦略推進室	920-8580	金沢市敦月1丁目1番地	076-225-1613
21	福井県	福井県農林水産部地域農業課農業人材確保グループ	910-8580	福井市大手3-17-1 8階	0776-20-0433
22	岐阜県	岐阜県農政部農業経営課	500-8570	岐阜市藪田南2-1-1	058-272-8429
23	愛知県	愛知県農林水産部農業経営課普及企画グループ	460-8501	名古屋市中区三の丸3-1-2	052-954-6412
24	三重県	三重県農林水産部担い手支援課	514-8570	津市広明町13	059-224-2354
25	滋賀県	滋賀県農政水産部農業経営課地域農業戦略室	520-8577	大津市京町4-1-1	077-528-3845
26	京都府	京都府農林水産部農産課	602-8570	京都市上京区下立売通新田西入敷ノ内町85-3	075-414-5989
27	大阪府	大阪府国際農業交流協会	J A E Cにお問い合わせください		
28	兵庫県	兵庫県農政環境部農政企画局農業経営課	650-8567	神戸市中央区下山手通5-10-1	078-362-9194
29	奈良県	奈良県農林部農業水産振興課	630-8501	奈良市登大路町30	0742-27-7442
30	和歌山県	和歌山県農林水産部農業生産局経営支援課	640-8585	和歌山市小松原通1-1	073-441-2932
31	鳥取県	鳥取県農林水産部農業振興戦略監とっとり農業戦略課研究・普及推進室	680-8570	鳥取市東町1-220	0857-26-7389
32	島根県	島根県農林水産部農業経営課担い手育成第二グループ	690-8501	松江市殿町1	0852-22-5395
33	岡山県	岡山県農林水産部農産課担い手育成班	700-8570	岡山市北区内山下2-4-6	086-226-7420
34	広島県	広島県農林水産部農業技術課経営技術グループ	730-8511	広島市中区基町10-52	082-513-3559
35	山口県	山口県農林水産部農業振興課農業技術班	753-8501	山口市滝町1-1	083-933-3366
36	徳島県	徳島県農林水産部総合技術支援センター経営推進課担い手支援担当	770-8570	徳島市万代町1-1	088-621-2427
37	香川県	香川県農政水産部農業経営課担い手・集落営農グループ	760-8570	高松市番町4-1-10	087-832-3406
38	愛媛県	愛媛県農林水産部農政企画局農政課農地・担い手対策室	790-8570	松山市一番町4-4-2	089-912-2553
39	高知県	高知県農業振興部農地・担い手対策課	780-8570	高知市丸ノ内1-7-52	088-821-4512
40	福岡県	福岡県農林水産部経営技術支援課後継人材育成室	812-8577	福岡市博多区東公園7-7	092-643-3495
41	佐賀県	佐賀県農林水産部農産課	840-8570	佐賀市城内1-1-59	0952-25-7118
42	長崎県	長崎県農林部農業経営課 就農支援班	850-8570	長崎市江戸町2-13	095-895-2935
43	熊本県	熊本県農林水産部生産経営局農地・担い手支援課	862-8570	熊本市水前寺6-18-1	096-333-2432
44	大分県	大分県農林水産部新規就業・経営体支援課	870-8501	大分市大手町3-1-1	097-506-3598
45	宮崎県	宮崎県農政水産部農業経営支援課農業金融担当	880-8501	宮崎市橋通東2-10-1	0985-26-7131
46	鹿児島県	鹿児島県農政部経営技術課	890-8577	鹿児島市鴨池新町10-1	099-286-3160
47	沖縄県	沖縄県農林水産部営農支援課	900-8570	那覇市泉崎1-2-2	098-866-2280
48	推薦団体	北里大学 獣医学部 学生課	034-0021	青森県十和田市東23番町35-1	0176-23-4371
49	推薦団体	東京農業大学 国際協力センター	156-8502	東京都世田谷区桜丘1-1-1	03-5477-2560
50	推薦団体	東京農業大学 生物産業学部 学生教務課	099-2422	北海道網走市八坂196	0152-48-3813
51	推薦団体	東京農業大学 農学部 学生教務課	243-0034	神奈川県厚木市船子1737	046-270-6225
52	推薦団体	酪農学園大学 エクステンションセンター	069-8501	北海道江別市文京台緑町582番地	011-388-4132
53	推薦団体	拓殖大学北海道短期大学	074-8585	北海道深川市メム4558	0164-23-4111
54	推薦団体	帯広畜産大学 入試・教務課 教務係	080-0835	北海道帯広市稲田町西2線11番地	0155-49-5411
55	推薦団体	日本農業経営大学校	108-0075	東京都港区港南2丁目10番13号 農林中央金庫品川研修センター5階	03-5781-3750
56	推薦団体	ハッ岳中央農業実践大学校	391-0112	長野県諏訪郡原村17217-118	0266-74-2111

協 賛



バイエル



WATARI CO., LTD.



米国農務省

海外農業研修推薦教育機関

